

京焼・清水焼

一人暮らしをしている人の中には、下宿の食器を買い足したい、折角なら大量生産のものではなく京都らしいものを取り入れたい、と思っている人もいるのではないのでしょうか。今回はそんな方に、「京焼・清水焼」について紹介したいと思います。（砂場）

京焼・清水焼とは

京都で焼かれた焼き物を一般的に「京焼・清水焼」と呼んでいます。他の有名な陶磁器のように固有のデザイン・技法があるわけではなく、多様な技法を用いて茶わん、湯のみ、猪口、徳利、一輪挿しなど、さまざまな種類の陶磁器が作られています。江戸時代初期に作られ始め、現在では国から伝統的工芸品に指定されています。

京焼・清水焼の魅力

絵柄や形状などのデザインに定型化されたものがなく、できあがる陶磁器は窯元のセンスや感性が大きく反映されたものとなるので、その中から自分の好みに合うものを探すことができます。

絵付けは一つ一つ職人さんが手作業で行っており、塗りの太さや濃さが少しずつ異なるのですが、これによってプリントで絵付けされたものにはない柔らかい印象が生まれます。また一度に多く作ることができないので、一点ものも多く、大量生産の陶磁器にはない趣があります。

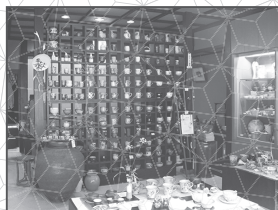
京焼・清水焼を買うには

最も安い茶わんや湯のみでも500円前後と少々値が張りますが、年に数回ある陶器市に行けば普段より安く買うことができます。今回は京焼・清水焼の有名な産地とそこで行われる陶器市を併せて紹介します。

売 五条坂・茶わん坂

周辺に約100軒の窯元がある清水焼発祥の地です。陶磁器を取り扱う店がたくさん立ち並んでおり、ゆっくり見て回ることができます。清水寺への参道にもなっており、観光客も多く訪れます。

『五条坂陶器まつり』が五条通南北歩道（五条橋～東大路通）で毎年8月に行われています。



▲多くの陶磁器が飾られた棚が迎えてくれる



式 清水焼団地

一点ものの陶器を作る職人さんを含め、50軒弱の窯元があります。昔は清水周辺にいた職人さんが山科区に山越えしてできた団地です。予約すれば陶芸体験（絵付け・手びねり）ができることもあります。

『清水焼の郷まつり』が清水焼団地内で毎年10月に行われています。



▲「生活に寄り添う器」をコンセプトに作っている



▲色も形もさまざま



▲ろくろを用いて作られる